

## 煙が目に染みる？

「どんど焼きに家庭ゴミ。神社困る。」という新聞記事（1月16日付読売新聞）が目にとまりました。これでは、さそや神様も煙が目に染みて、涙目になっているのではないかしら、と思います。

「どんど焼き」というのは、正月飾りを、その年の小正月に焼いて1年の無病息災を祈る伝統行事です。

我が家の近くにある小さな神社でも、例年、年末になると神社の境内に小さな小屋が用意され、そこに古いお札や神棚の飾りなどが集められ、それを15日の小正月に「どんど焼き」として焼納されています。その小屋の入口には、プラスチックやビニールなど燃やせない物は持ち帰るよう表示されていますが、それが守られておらず、しかも年々酷くなっていることが気になっておりました。

新聞記事を見ると、プラスチックのおもちゃや納豆の容器、本などの日用品、更には家庭ゴミが3～4割も占めているとのことですから、罰当たりもここに極まるというところではあります。

「どんど焼き」に家庭ゴミを持ち込む人の精神構造は理解できませんが、「自分さえ良ければ」と考えていることは間違いないでしょう。そして、こうした自己中心の独善的な人が増えていると感じるのは私一人ではないと思います。

町内でも、分別をしないでゴミを出す、収集日でもない日にゴミを出す、などということ位ではもう驚きません。

以前、交差点で信号が赤なので停止していると、前方の車のドアが突然開いたのでどうしたのかとと思っていると、たばこの吸い殻をがさっと捨てるではありませんか。これには驚きました。

朝、出勤途中の地下鉄の中で女性が化粧をする姿や地下鉄のホームで若い学生などがべたっと座っている姿を見るのは、随分以前から珍しくなくなりましたが、これは寝室や居間を世間に晒すのと同じ事ではないかと思っています。

書店では、万引きが後を絶たず経営上も大きな問題になっていますが、自分が欲しいと思ったからといって黙って持ち帰れば犯罪であるという意識がない、こうなると呆れるというより恐ろしくなります。

昨年の東日本大震災の際、被災者の方々の整然と規律に富んだ対応は世界の人に感動を与えましたが、一方では、こうした「公」と「私」の区別がつかない、自己本位の人間が沢山いることもまた日本の現状です。

何故こんなことになってしまったのでしょうか。その背景には、社会や経済の構造が大きく変化している中、格差が広がり人々の閉塞感が強まっていることや家庭における教育力の低下など様々なことが考えられますが、戦後教育の中で、公共の精神をしっかりと教えようとしてこなかったことにも大きな要因があるのではないのでしょうか。平成18年の教育基本法の改正において、その前文に「公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」ということが新たに付け加えられたのは、その反省に立ってのことだと思われま

す。人は一人では生きていけません。社会という共同体の中で、多くの人と関わりながら生活していますので、子ども達に、人々が互いに快適に暮らしていくための社会のルール（規範）を身に付けさせることは大変大事なことですし、自分の住んでいる地域を愛し、その地域が少しでも良くなるように貢献したいと思い、また、そうできる人材を育てていく必要があることも至極当然のことです。

「公共の精神を尊ぶ」からとって「個人の尊厳」が損なわれて良い訳はありませんが、同時に、「個人の尊厳」を強調する余り「公共の精神」を蔑ろにして良い筈もありません。要は、双方のバランスの取れた人材の養成こそ肝要だと思っています。（塾頭 吉田 洋一）